

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	22-402	佐賀県医療センター好生館 角南隆史 独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター 松下幸生
題名（原題／訳）		
Effects of the COVID-19 pandemic and lockdown on alcohol use disorders and complications COVID-19 のパンデミックとロックダウンがアルコール使用障害と合併症に及ぼす影響		
執筆者		
Pratima Murthy		
掲載誌		
Curr Opin Psychiatry. 2021;34(4):376-385. doi:10.1097/YCO.0000000000000720		
キーワード		PMID
アルコール依存症、コロナウイルス感染症、ロックダウン		34016817
要旨		
<p>レビューの目的： COVID-19 のパンデミックおよびロックダウンがアルコール使用障害者に与える影響を理解する</p> <p>得られた知見： COVID-19 とアルコールがタイトルに入っている 455 の論文から、227 の論文のアブストラクトを抽出し、95 の論文をレビューしました（2020 年 11 月 25 日付）。直ちに影響があったのは、アルコール離脱、関連自殺、メタノール中毒などのアルコール関連の緊急な対応を要する事態の増加です。飲酒量の変化に関しては様々な知見がありますが、ロックダウン中のビンジ飲酒や多量飲酒、またロックダウン後の再発などが報告されています。飲酒量の変化には、心理的、社会的、生物学的、経済的、政策的な要因が影響しているようです。予備的なデータでは、精神疾患を併発している人のアルコール使用量には変化がないことが示唆されていますが、現在のところ、この集団における知見は限られています。アルコール性肝疾患の患者では、治療成績が悪化しており、薬剤の使用には注意が必要です。また、アルコールは COVID-19 感染症のリスクを高め、その経過を複雑にすると考えられています。ロックダウン時にアルコールの販売を全面的に禁止している国もありますが、アルコールを必要不可欠な商品としている国もあり、その結果、国によって異なる問題が生じています。特に、青少年、高齢者、がん患者、医療従事者などの弱い立場の人々の間では、飲酒がこの問題の負担を増大させています。また、アルコール使用障害の患者に対するサービスにも影響が出ています。</p> <p>要約： COVID-19 パンデミックは、アルコール関連の緊急事態の増加、アルコール使用パターンの変化、COVID-19 に感染するリスクの増加、アルコール政策や販売への影響、脆弱な集団への影響など、飲酒にかなりの影響を与えています。現在の状況を理解して対応し、早期に介入し、パンデミックのさらなる影響を防ぐことが不可欠です。</p>		